

週報2023年1月8日

■教会標語聖句

望みを抱いて喜び、患難に耐え、
絶えず祈りに励みなさい。

ローマ人への手紙12章12節



シオン教会信仰指針
「祈りに励む教会」

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
北九州シオン教会

牧師: 山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395 (FAX...4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2022年1月8日

ピアノ: 赤松姉 オルガン: 力丸勝子師

司会: 小松姉 献身の祈り: 石田兄 メッセージ: 山崎師

| | | |
|-------|--------------------------------|-----|
| 開会の祈り | | 司会者 |
| 信仰告白 | 使徒信条・標語聖句唱和 | |
| 賛美 | 新聖歌272「救い主の愛と」 | |
| 祈り | * 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう! * | |
| 賛美 | 新聖歌409「燃ゆる御霊よ」 | |
| 献身の祈り | | 石田兄 |
| 賛美 | 新聖歌388「いとも良きものを」 | |
| 賛美 | コーラス4「ビジョン」 | |
| 聖書箇所 | ローマ人への手紙 12章 12節 | |
| 説教 | 「祈りに励む」 | |
| 祈り | 「応答の祈り」 | |
| 聖餐式 | 奉仕者: 大熊兄・石田兄・吉武姉・大熊ひ姉 | |
| 頌栄 | 「主の祈り」 | |
| 祈り | | 山崎師 |

交わりの三省

- *互いに愛し合っていますか
- *互いに赦し合っていますか
- *互いに祈り合っていますか

説教要約

ローマ人への手紙 12章 12節 「祈りに励む」

パウロが手紙を書いたローマの教会（当時ローマに幾つもの家の教会があった）は複雑な事情があり、ユダヤ人と異邦人（ユダヤ人以外の国の人々を指す）の間に対立が生じていました。当時の皇帝クラウディオがローマにいるユダヤ人を全て追放しました。その間、異邦人が教会を守り形成していきました。その数年後（恐らく5年後）ユダヤ人達は帰ってきました。（恐らく追放令が解かれた）

ユダヤ人達は、異邦人達が形成した幾つかの教会のルールに異議を申し立てました。一番大きなものは割礼と安息日（律法）を守らない事でした。そういった背景の中、ローマの教会は人間関係が悪化して行きました。パウロがローマ人の手紙を書いた背景は幾つかあります。それはお互いの緊張関係の修復です。まず、パウロは救いを一方的な神の恵み、と説きました。異邦人もユダヤ人も同じ神の恵みに招かれた一つの共同体と言う事です。

それを前提（あなた達は神の家族）としてパウロはローマ人の手紙12章から教会の人々に一致を勧めています。端的に12章を要約すると、**キリストの愛を基として一致と調和に励みなさい**と言う事です。こういった背景を基に、今回私達は愛について学んで行きたいと思います。今回の結論はこうです。私達は偽りの無い愛を追い求める為に祈りに励みます。

つまり、教会の在るべき姿は“一致”であり、その鍵は“愛”だと言う事です。パウロはローマ人の手紙12章9節で「愛には偽りがあってはなりません」と言っています。では“偽りの無い愛”とは何でしょうか？パウロが12章で強調している事は主イエスの言葉“自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい”です。12章の結びは「善を持って悪に打ち勝ちなさい」です。同

じ意味です。

12章19節に書かれている「神の報い」とはイエス・キリストです。神はイエス様を世につかわしましたが、人々は嘲り、罵りました。しかしイエス様の十字架上の祈りは「父よ彼らをおゆるし下さい」です。これが敵を最後まで愛し通した“神の報い”です。

つまり、私達は何故祈るのかというと、自分にも隣人にも“神の報い”があるように祈ります。聖書の教えによると、復讐は私達がする事ではなく、主がする事です（ロマ12:19）主の復讐は悪を善で返す事です。つまり、私達は主の報いが最後までであるように隣人の為に祈ります。これが「望みを抱いて喜び、艱難に耐え、絶えず祈りに励む」と言う事です。

パウロが問題視している事は、主の慈愛をもって助け合う共同体が対立している現状です。愛に偽りがあってはいけません。パウロは一致を勧めています。しかしそれは人間の行いによって完成するのではなく、愛によって完成するとパウロは勧めています。その鍵を握るのは祈りです。

私たちが祈らなくなる理由は愛に失望する時です。言い換えると、神の報いに対する不信心です。私達は努力が報われず、不当な扱いを受けると私達は“報われない”と考えます。当然の話です。しかし、信仰者はそこで何をもって“報いるか”が問われます。私達の努力は賞賛を得る為、報復を与える為にあるものではありません。信仰とは“神の報いを最後まで信じ通す”事です。**報いは神から来ます。**

最後に祈りは信仰告白です。感謝の祈り、執り成しの祈り、一致の祈り、赦しの祈り、**主は私達の信仰の祈りに報いて愛を注がれる方です。（ローマ5:5）**つまり私達キリスト者は神の愛に報いる為に在るのです。今年の教会指針は“祈りに励む”です。私達一人一人の祈りが新年礼拝のポスターのように重なり合って、神の愛が更に豊かに教会に現わされて行きます。共に祈りに励んで参りましょう。